

会 告

「第3版 鉄鋼便覧 第II巻 製鉄・製鋼」刊行のお知らせ

本会が予てより企画・編集を進めてまいりました「第3版 鉄鋼便覧」（全6巻）が、10月下旬刊行予定の「第II巻 製鉄・製鋼」より順次刊行の運びとなりました。

旧版刊行以来 14 年を経た今日、わが国の鉄鋼技術の進歩発展は誠に著しく、最新の技術に基づいたデータを集積したハンドブックの刊行を、との会員諸兄よりの強い要望があり、改訂を進めて参りました。しかし、これらの膨大な知識と情報を一冊にまとめることは困難であり、編集委員会および各分科会において度重なる検討の結果、今回の大改訂に際しては、鉄鋼関係技術者が実際の作業・研究に役立つデータを、現場的技術体系ならびに理論的な観点から総合的に網羅するとの一貫した編集方針のもとに、構想も新たに全6巻（7分冊）により専門別に刊行することと致しました。

今回刊行の「第3版 鉄鋼便覧II製鉄・製鋼」は、その第1冊目であり、発刊に際し、下記の通り会員特典を設けましたので、ぜひこの機会をご利用頂くようおすすめ致します。

記

第3版 鉄鋼便覧 会員特典について

1. II製鉄・製鋼 10月下旬刊 B5判 840 ページ
2. 会員特価 19,500 円 (定価 23,000 円) (送料本会負担)
3. 申込方法 本号にとじ込みの会員特価申込書を用いて本会宛お申込み下さい。
4. 申込期限 昭和 54 年 12 月末日
5. 現品の送付および支払方法
本会に申し込まれた書籍は丸善(株)よりお届けします。なお、代金は先に送付の郵便振替用紙を用いて送金願います。
この振替用紙は鉄鋼便覧購読のみに使用し、他の用途にはお使いにならぬようご注意ください。
6. 注意事項 ・本特典は丸善本・支店および一般書店では扱っておりません。必ず本会宛お申込み下さい。
・郵便振替、現金書留等での送金をご遠慮下さい。必ず指定の本会口座へ振込まれるようお願いいたします。
7. その他 第II巻以降の刊行については、発行時期、価格等決定次第お知らせ致します。

第II巻 製鉄・製鋼 主要内容

1 製 鉄

原 料

鉄鉱石/石炭/その他製鉄・製鋼用原料/フェロアロイの原料/サンプリング

焼 結

焼結理論/焼結原料/焼結設備/焼結操業/焼結鉄品質

ペレット

ペレット理論/ペレット原料/ペレット設備/ペレット操業/ペレットの品質

コークス

原料炭の諸性質と配合/コークス設備/コークス操業/コークス品質/新コークス製造法

高 炉

高炉の理論/原燃料/操業/設備/鉄鉄および副産物

特殊製鉄

直接製鉄のプロセス/還元鉄の利用

フェロアロイ

製造設備/各種フェロアロイの製造

2 製 鋼

転炉製鋼法

溶鉄の予備処理法/上吹転炉製鋼法/底吹転炉製鋼法(純酸素底吹)

平炉製鋼法

設備/原料/操業/熱精算および物質精算

電気炉製鋼法

アーク炉/誘導炉

造塊法

設備/造塊作業/特殊造塊法/鋼塊品質/

連続鑄造法

総論/凝固/設備/操業/鑄片の品質/

製品の品質

特殊精錬

量産鋼の炉外精錬法/ステンレス製鋼法/

高級鋼の特殊溶解精錬法

製鋼用耐火物

溶鉄予備処理用耐火物/転炉用耐火物/平炉用耐火物/

電気炉用耐火物/造塊用耐火物/連続鑄造用耐火物/

特殊精錬用耐火物

鉄鋼便覧全6巻の構成および主要内容

I 基礎

基礎理論／製鉄基礎／製鋼基礎／凝固現象／塑性基礎／金属の結晶と構造の物理的性質／金属組織力学的性質／化学的性質／計装／制御及び自動化／計測法／コンピュータ／保全

III(1) 圧延基礎・鋼板

熱技術／スケール／圧延及び矯正理論／圧延潤滑／分塊／厚板／熱延／冷延

III(2) 条鋼・鋼管・圧延共通設備

形鋼／棒鋼・線材／継目無鋼管／溶接鋼管／冷間加工／精整／試験・検査／加熱炉設備／機械設備／電気設備／補助設備

IV 鉄鋼材料・試験・分析

鉄鋼材料概論／鉄鋼材料各論／分析試験／腐食試験／物理冶金試験／材質試験／非破壊試験／材料試験／溶接性試験

V 鑄造・鍛造・粉末冶金

鑄造品の生産統計／鑄造品の特徴と設計／造型材料と造型法／鑄物工場の設備とレイアウト／鑄鉄鑄物の製造法と材質／鋼鑄物の製造法と材質／製鉄用鑄物／特殊鑄造法とその製品／鋼の鍛造概論／鍛造機械／自由鍛造／型鍛造／特殊鍛造法／粉末冶金の総説と基礎理論／原料粉／粉末の調整／圧縮成形／焼結／後処理／特殊製造法／焼結材料／部品の形状、寸法、精度／部品の製造例

VI 二次加工・表面処理・熱処理・溶接

引抜加工／冷温間鍛造／転造／ワイヤフォーミング／チューブフォーミング／プレス加工／製缶／ロール形成及びスピニング／表面処理／表面処理鋼板／鋼材の表面処理／熱処理作業／熱処理設備／表面硬化／溶接法／熱切断／各種材料の溶接／溶接継手の設計・施工／溶接の試験・検査及び管理

「鉄と鋼」特集号原稿募集案内

テーマ：鋼材の表面処理

原稿締切日：昭和54年10月19日(金)

近年、鋼材の表面処理技術の発展にはめざましいものがあり、それらの品質、経済性に対する要求の高まりに対応して、新製品の開発や学術的掘り下げが活発に行われております。そこで、これまでの進歩のあとを確かめるとともに将来の鉄鋼技術の発展に資するために、今回は標記テーマによる特集号を企画いたしました。

内容は、鋼板および鋼管の表面処理技術ならびに製品に関するもので、めつき、化成処理、有機被覆、潤滑被覆や酸洗、クリーニングなどの前処理技術など、防食のみならず加工に際しての潤滑性向上やそれらの利用技術など鉄鋼材料の付加価値を高める技術を広角の視野でとらえようとするものであります。

つきましては、これらの内容に関する論文あるいは技術報告を多数ご投稿下さいますようお願い申し上げます。

記

1. テーマ 鋼材の表面処理
2. 原稿締切日 昭和54年10月19日(金)
3. 発行 鉄と鋼 第66年7号(昭和55年6月号)
4. 原稿枚数 表、図、写真を含めて所定の原稿用紙
 - 1) 論文 50枚以内(刷上り10ページ以内)
 - 2) 技術報告 35枚以内(刷上り7ページ以内)
 - 3) 原稿は本会投稿規定に基づいて執筆下さい。
 - 4) 投稿された論文は編集委員会において審査されます。
5. 問合せ送付先 〒100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3F
(社)日本鉄鋼協会編集課特集号係 電話 03-279-6021

(注) 投稿時原稿表紙に「鋼材の表面処理特集号」と朱書して下さい。

第 63・64 回西山記念技術講座開催のお知らせ

—— 鉄鋼材料のミクロ組織と破壊力学 ——

主催 日本鉄鋼協会

第 63・64 回西山記念技術講座を下記のとおり開催いたしますので多数ご来聴下さいませようご案内いたします。

- I 期 日** 第 63 回 昭和 54 年 11 月 29 日(木), 30 日(金)
 北九州 北九州市勤労者会館 北九州市八幡東区中央 2-1-1 TEL 093-661-7334
 第 64 回 昭和 54 年 12 月 12 日(水), 13 日(木)
 東京 農協ホール 千代田区大手町 1-8-3 農協ビル 9 階 TEL 03-279-0311

II 演題ならびに講師

- | | | | | |
|-------|-------------|-------------------------------------|------------------|-------|
| 第 1 日 | 9:30~11:30 | 破壊力学の最近の進歩 | 大阪大学工学部 | 大路 清嗣 |
| | 12:30~14:30 | 破壊靱性の評価方法 一靱性を支配する力学的因子と材料因子のかかわり合い | 東京工業大学工学部 | 小林 英男 |
| | 14:40~16:40 | 破壊挙動と顕微鏡組織 一靱性を支配する材料組織因子 | 住友金属工業(株)中央技術研究所 | 大森 靖也 |
| 第 2 日 | 9:30~11:00 | 定量フラクトグラフィーと破壊力学 | 新日本製鉄(株)製品技術研究所 | 石黒 隆義 |
| | 11:10~12:40 | 脆性破壊の試験法と破壊力学による評価 | 東京大学工学部 | 町田 進 |
| | 13:30~15:00 | 溶接継手強度の破壊力学による評価 | 日本鋼管(株)技術研究所 | 川原 正言 |
| | 15:10~16:40 | 破壊力学の構造物への適用例 | (株)神戸製鋼所構造研究所 | 池田 一夫 |

III 講演内容

1. 破壊力学の最近の進歩 大路 清嗣

破壊力学構成の基礎となつている、き裂先端近傍で支配的な特異応力場の概念を中心に、(1)弾性き裂のき裂先端近傍の力学状態を記述するための線形破壊力学の基礎、(2)線形破壊力学の適用可能範囲を決める小規模降伏の概念と、小規模降伏条件下のき裂先端塑性域の状態、(3)小規模降伏状態をこえた弾塑性状態でのき裂先端近傍の力学状態を記述する弾塑性破壊力学の J 積分による構成について述べ、破壊力学の現状を解説する。

2. 破壊靱性の評価方法 小林 英男

線形弾性から弾塑性の範囲にわたつて、破壊靱性の概念およびその評価方法の現状を解説する。特に、平面ひずみ破壊靱性 K_{Ic} と弾塑性破壊靱性 J_{Ic} の関連に重点を置く。また、鉄鋼材料の破壊靱性を例に取つて、力学的因子、破壊機構および材料因子のかかわり合いを詳細に議論する。

3. 破壊挙動と顕微鏡組織 大森 靖也

鉄鋼材料の破壊挙動は顕微鏡組織や合金元素など冶金学的因子によつて大きな影響を受ける。ここでは延性破壊と脆性破壊およびその間の遷移現象が金相学的因子と如何に関連するかを微視的模型を基礎に概説する。特に非調質鋼における粒界炭化物やパーライトコロニーなど脆い第 2 相の役割、調質鋼における破面単位的重要性、また粒界脆化における微量元素の偏析の問題について最近の知見をまとめる。

4. 定量フラクトグラフィーと破壊力学 石黒 隆義

破壊現象を定量的に論ずるために破壊力学が使われるようになってきたが、これが破面に現われるパターンとどのような関係にあるか、定量的にどの程度まで論ぜられるかについて過去の研究を展望し、今後の問題点について述べる。

5. 脆性破壊の試験法と破壊力学による評価 町田 進

鋼の脆性破壊の巨視的特徴を述べた後、個体力学的取扱いとしての破壊力学すなわち線形破壊力学と非線形破壊力学のあらましを証明する。次いで材料の破壊靱性の定義と破壊力学の適用による脆性破壊特性試験法と破壊力学的解釈、材質判定への応用、設計への応用についてふれる。

6. 溶接継手強度の破壊力学による評価 川原 正言

溶接継手の破壊は、多くの場合、継手に存在する諸溶接欠陥を起点とする小さい疲労き裂の発生・成長として始まる。構造部材が受けるさまざまな変動荷重により、き裂は成長を続けるが、ある限界寸法に達すると脆性破壊又はリークその他により、構造物は機能停止に至る。

このような破壊の進行過程を全体として評価するための破壊力学解析の基本的考え方、ASME Code Sec. XI などのアプローチについて論じ、今後の諸検討課題について考察する。

7. 破壊力学の構造物への適用例 池田 一夫

破壊力学は構造物の脆性破壊を防止したり、疲労寿命の推定にひろく活用されている。ここでは完成時の耐圧試験で脆性破壊が発生した HT60 製 L P G 貯蔵タンクでの限界き裂長さの推定、HT70, HT80 をもちいた長大橋での脆性破壊防止のための溶接継手の切欠じん性の要求規格値の決定、コンテナ船用の船用プロペラの疲れ寿命の推定および発電機用タービンローター軸材での許容初期欠陥寸法の推定の場合について述べる。

IV 聴講無料 (事前の申込は必要ありません)

V テキスト代 4,500円

VI 問合先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021

高炉内現象とその解析

(鉄鋼基礎共同研究会高炉内反応部会中間報告会)

当部会は昭和52年3月発足以来2年有余にわたり高炉内における現象の解明とその解析を目的として共同研究を進めている。これまで高炉解体結果の総合的調査、高炉の総合数学モデルの作成、高炉内における装入物の運動、装入物分布とガス流れおよび融着帯形状の関係、融着層生成機構、コークスの酸化反応の速度論的研究、レースウェイ周辺のガス流れ、炉芯の構造およびその周りの固体の流れ、コークス充填層内での融体の滴下挙動、高炉の総合数学モデルの作成等につき多くの研究および調査報告が提出された。部会活動期間の中間点に達した時点で、これまでの研究成果をまとめて中間報告会を開催し、広く製鉄関係の技術者、研究者のご批判を仰ぎ、今後の部活動の糧とした。多数ご来聴願い、活発な討論を願いたい。

日 時 昭和54年10月24日(水) 9:00~17:15

場 所 神田学士会館 210 会議室

千代田区神田錦町 TEL (03) 292-5931

テキスト代 2500円 (予価)

9:00	開 会	
9:00~9:15	部会長挨拶	(東北大) 大森 康男
9:15~9:55	解体調査の総合検討結果	(日本鋼管) 福島 勤
9:55~10:15	装入物の分布形成と降下挙動	(神 鋼) 稲葉 晋一
10:15~10:35	装入物の分布と高炉操業	(新日鉄) 君 津
10:35~11:05	炉下部における装入物と液体の流れ	(川 鉄) 福武 剛
11:05~11:30	塊成鉄の軟化溶け落ち性と高炉操業	(北 大) 石井 邦宣
11:30~12:00	高炉融着層のガス流れと伝熱の解析	(新日鉄) 杉山 喬
	昼 食	
13:00~13:20	ペレットの品質改善と高炉における使用について	(神 鋼) 加 古 川
13:20~13:45	高炉下部領域での Si, S および Mn 分配反応の進行度と操業状態の関係	(川 鉄) 槌谷 暢男
13:45~14:15	ディスクッション	
14:15~14:40	燃焼帯モデル	(名 大) 桑原 守
14:40~15:00	D'Arcy-Ergun 式のテンソル形について	(東 大) 吉沢 昭宣
15:00~15:10	休 憩	
15:10~15:35	コークスの酸化速度	(東北大) 小林 三郎
15:35~16:00	炉内におけるコークスの挙動と評価法	(住 金) 宮津 隆
16:00~16:30	有限要素法による高炉の2次元モデル	(東北大) 八木順一郎
16:30~17:00	総括討論	
17:00~17:15	閉会挨拶等	

昭和 55 年秋季 (第 100 回) 講演大会討論会

討論講演募集のお知らせ

昭和 55 年秋季 (第 100 回) 講演大会に開催されます討論会講演を下記により募集いたしますので奮ってご応募下さるようご案内いたします。

1. 討論会テーマ

1) 高炉燃料比の理論限界 座長 鈴木 駿一

現状予想される原料条件その他を前提とし、高炉のシャフト効率を極限に近づけたら燃料比はいくらになるか、この意味での理論限界は、製鉄部会等でも大体のコンセンサスが得られていると思う。問題は目標を達成するための具体的な対策であるが、なおその他に目標そのものが前提条件の今後の変化、あるいは新しい技術開発により如何変っていくか、大きな問題であろうと思われる。当然新しい製鉄プロセスともかかわってくると思われ、高炉技術者以外からもユニークな提言が望まれる。

2) 溶銑予備製錬 座長 中川 龍一 副座長 堀口 浩

溶銑の予備処理として、炉外脱硫法は、方式、脱硫剤に各種差はあるが、プロセスの一部として実施されるのが一般的となってきた。さらに、脱珪、脱磷などの役割も転炉内製錬から切離して、予備製錬として行う方向の検討がされている。これに関して、CaO-CaCl₂系や、Na₂CO₃系スラグによる同時脱磷脱硫などの新しい知見が報告され、元素ごとの最適製錬条件の組立を基本とした製錬プロセスの追求がクローズアップされてきた。

本討論会では、溶銑の転炉装入前製錬のプロセス化の可能性と今後の方向について討論したい。

基礎的研究から、技術的問題まで、脱硫を除く予備製錬についての積極的な研究発表をお願いしたい。

3) 厚板圧延における歩留向上技術 座長 日下部 俊

厚板圧延の歩留向上は、高精度圧延によつて論理的に達成可能な分野であり、歩留が圧延技術によつて直接的に支配される要素がきわめて大きい。すなわち、板間、板内厚み偏差、板クラウン偏差は素材スラブ重量の見積りの重要な指標となつている。したがって、圧延技術、理論の精度は高度な内容を要求され、また平面形状問題もクロップ、耳代の軽減技術として重要な意味をもつようになつた。ところで鉄鋼各社の技術水準は、注文歩留 90% 以上にできる段階となつているので、高歩留を可能にした圧延技術、理論の発表および関心のある方々の活発な討論をお願いします。

4) 冷延高張力鋼板 座長 大橋 延夫

自動車車体用としての冷延高張力鋼板は、いわゆる Dual Phase Steel を中心として、世界的な関心の下に開発と実用化の努力が続けられている。しかし長年月にわたり大量に使われてきた軟質鋼板に代つて、広くしかも安定的に実用化されるためには、なお多くの課題が残されている。そこで今回は、これら自動車用冷延高張力鋼板の製造や加工技術、そして特性と冶金学的基礎知見の関係、あるいは使用者側からみた材質評価などについて、幅広い活発な討論を期待したい。

5) 応力腐食割れ感受性の評価方法 座長 久松 敬弘

オーステナイト・ステンレス鋼のような soft alloys の応力腐食割れ対策としての SCC 感受性評価方法を討議する。スクリーニング試験と設計のためのパラメータを求める試験のそれぞれにおいて、(i)試験環境の選定、(ii)応力負荷法(定荷重・定ひずみ・低ひずみ速度試験など)(iii)感受性の尺度をどう選択するか。塩化物粒内割れと高温水粒界割れとを同じ土俵で論じ得るか。

2. 申込締切日 昭和 55 年 2 月 15 日 (金)

3. 申込方法 「鉄と鋼」第 1 号に綴込みの申込用紙に必要事項ならびに申込書裏面に 400 字程度の講演の要約をお書きのうえお申し込み下さい。

4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出の要約により検討のうえ決めさせていただきますのであらかじめお含みおき下さい。

5. 講演前刷原稿締切日 昭和 55 年 5 月 15 日 (木)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙 4 枚以内(表、裏、写真を含め 6,700 字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第 66 年第 8 号(昭和 55 年 7 月号)にて発表いたします。

7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第 66 年第 9 号(8 月号)に講演内容を掲載いたします。

8. 討論質問の公募締切日 昭和 55 年 9 月末日

前記 9 号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛ご送付下さるようお願いいたします。

申込先: 100 東京都千代田町大手町 1-9-4 経団連会館 3 階

日本鉄鋼協会編集課 TEL 03-279-6021 (代)

北 陸 支 部

学術講演会（研究発表）講演募集

本会北陸支部は金属学会北陸信越支部と共催で下記により学術講演会（研究発表）を開催することになりました。多数お申込み下さいますようご案内いたします。

日 時 昭和54年12月13日（木）

講演会 14日（金）見学会

場 所 金沢商工会議所（金沢市尾山町）

募集要項：講演題目、氏名（2名以上のときは講演者に○印）勤務先、通信先、スライド有無などを記入の上下記申込先にお送り下さい。

講演申込締切：10月27日（土）

原稿締切：11月17日（土）

申込先 〒933 富山県高岡市中川園町富山大学工学部内
日本鉄鋼協会北陸支部事務局
（電話 0766-21-2510）

なお、下記のように13日当日は懇親会を催し、翌14日は見学会を行います。

懇親会：会費 2,000 円

見学会：参加費 1,500 円

申込締切 12月1日（土）

見学工場

渋谷工業（株）〔瓶詰機械等〕 金沢市

中村留精密工業（株）〔精密工作機等〕 鶴来町

小堀酒造（株）〔萬歳染〕 鶴来町

注：（1）懇親会および見学会の申込みも上記支部事務局宛に願います。

（2）講演申込締切後、支部事務局より原稿用紙を送ります。その際記載要領を同封しますのでこれに従ってご記入の上期日までに支部事務局宛ご返送下さい。原稿はそのままゼロックスで複写して製本します。

中 国 四 国 支 部

学術講演会開催ご案内

当支部では、毎秋各地を持回りにより、学術講演会を開催しておりますが今年度はこの講演会を宇部市で下記要領により開催することにいたしました。

多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

なお、準備の都合などもございますので聴講ご希望の方は下記用式により10月20日までに当支部宛お申込み下さい。

記

と き：昭和54年11月9日（金）10:00～15:00

と ころ：宇部市西区島「宇部窒素健康保険会館」

国鉄宇部線「宇部新川駅」下車…改札を出て左へ50米（上り方向）また左へ150米（線路を渡る）信号を渡つて右へ50米

演題と講師

1. 耐海水ステンレス鋼

日新製鋼（株）周南製鋼所 研究部 前北 泉彦

一講演要旨一

ステンレス鋼を海水環境で使用した場合に生じる隙間腐食、孔食について、その評価の方法ならび

に合金元素の効果について述べる。

これをもとに耐海水性鋼として考えられる鋼の選定とこの種の耐海水性について述べる。

2. 水素貯蔵材料

科学技術庁金属材料技術研究所

工博 佐々木靖男

一講演要旨一

水素貯蔵材料が必要とされる背景、現在実用化されている本材料の実例、さらに進行中の研究課題などを含めて本材料について包括的に解説する。

学術講演会申込書用式

役 職	氏 名	宿泊希望	昼 食
	外（ ）名	月 日	要・不要

- （注）1. 宿泊手配を希望される場合は、宿泊の程度・宿泊日を明記して下さい。
2. 昼食を希望される場合は、その旨記入して下さい。
3. 連絡先：広島市八丁堀 4-16

中国産業会館内 { 日本鉄鋼協会 } 中国四国支部
{ 日本金属協会 }

電話 0822-21-2682

東 海 支 部

見 学 会

下記により見学会を開催いたしますので奮つて御参加下さいますよう御案内申し上げます。

記

日 時 昭和54年11月28日（水）8:00～17:00

場 所 1. 愛知製鋼（株）知多工場

2. 川崎製鉄（株）知多工場

集 合 当日午前8時00分に名古屋テレビ塔下に集合
会 費 1,000 円

申込方法 11月17日（土）までに勤務先、役職名、氏名を明記のうえ会費を添えて下記支部宛お申し込み下さい。定員になり次第締切らせていただきます。

（注）申し込みの際して定員の関係上電話にて確認のうえお申し込み下さい。

名古屋市千種区不老町 名古屋大学工学部

金属・日本鉄鋼工学教室内

日本金属学会・鉄鋼協会東海支部

Tel. (052) 781-5111 内線 3372

第 30 回 塑性加工連合講演会

開催日時 昭和54年11月20日（火）～22日（木）
9:30～17:00

場 所 愛知県中小企業センター

共 催 日本鉄鋼協会、他 8学協会

申 込 先 〒106 港区六本木 5-2-5 トリカツビル

（社）日本塑性加工学会 03-402-0849

申込締切り：昭和54年11月10日（土）

第 23 回材料研究連合講演会参加募集

共 催 日本学術会議材料研究連絡委員会ほか関連の
24学協会
幹事学会 セメント協会, 土木学会, 日本化学会, 日本
機械学会, 日本金属学会, 日本建築学会, 日
本材料学会, 日本材料強度学会
期 日 昭和 54 年 10 月 4 日(木), 5 日(金)
会 場 日本学術会議/東京都港区六本木 7-22-34
電 03-403-6291
A室 第4部会議室(6階)
B室 第5部会議室(6階)…講演部門(II)
C室 第6部会議室(6階)…講演部門I,
III, IV, V, VI, VII
D室 講堂(1階)…あいさつ, 特別講演
講演部門 I. 微視的構造(4題), II. 材料の力学的
性質と挙動(94題), III. 材料の物理的性質
(12題), IV. 材料の化学的性質(6題), V.
構造物強度(2題), VI. 材料の製造・加工と
処理(12題), VII. その他(8題)…総題数138題
特別講演 10月4日(木) 13:10~14:50
・開会あいさつおよび「材料研究連絡委員会
の現状」
日本学術会議材料研究連絡委員会委員長
東北大工 横堀 武夫
・特別講演「最近の金属系複合材料」
東工大精研 梅川 荘吉

講演前刷集予約について

講演前刷集(全講演138題集録)を予約頒布いたしま
す。

印刷部数に制限がありますので, 9月22日(土)まで
に代金を添えて下記にお申込下さい。

予約特価 1冊 3,500円(締切後は4,000円)で郵
送希望の方は別に送料200円加算のこと。
申込方法 B5判用紙に「第23回材料研究講演会前刷
集申込み」と記し, 氏名, 所属, 送本先を
明記のうえ, 代金を添えて, 下記にお申込
み下さい。

申込先 (社)日本建築学会材料研究連合講演会係
〒104 東京都中央区銀座 3-2-19
電 03-535-6511

プログラム 詳細なプログラムをご希望の方は所属の学
協会にお申し出下さい。

第 22 回自動制御連合講演会

特別講演 10月17日(木) 15:30~17:00

発明会館ホール
生物の飛行メカニズム

東大宇宙研 東 昭君

一般講演 54年10月16日(火)~18日(木) 国立教育会館

前刷; 1部 3,800円, 送料 200円

参加費 1,500円, 学生 1,000円

申込先 計測自動制御学会へ9月30日まで

第 20 回高圧討論会(関係学協会共催)

日 時 昭和54年11月14日(水)~16日(金) 9:20~17:00
場 所 兵庫県中央労働センター

神戸市生田区下山手通 6-25

電 (078) 341-2271

国鉄元町駅, 阪急花隈駅より徒歩 10 分

講演発表 高圧材料・装置に関するもの 18件
高圧力下の固体物性に関するもの 42件
高圧力下の固体反応に関するもの 19件
高圧力下の流体物性に関するもの 24件
高圧力下の流体反応に関するもの 17件

特別講演 深海底の高圧利用 神戸大理 安川克己
超高压容器の疲労と破壊 神鋼・中研 山口喜弘
高圧焼結法による無機材料の作成 阪大・産研 小泉光恵
高圧カーボン化と酸触媒 京大・化研 竹崎嘉真

参加登録 締切 10月15日

参加費 一般 3,500円 学生 2,500円
(要旨集, 送料を含む)

懇親会費 一般 3,500円 学生 3,000円
(11月15日 17:30)

申込問合先 第 20 回高圧討論会準備委員会

〒657 神戸市灘区六甲台町

神戸大学工学部蒔田研究室内

電話 (078) 881-1212 内線 5246, 5251

昭和 54 年度工業教育研究講演会

主催 日本工業教育協会 協賛 日本鉄鋼協会, ほか

日 時 昭和54年12月1日(土)

午前10時~午後4時10分

場 所 東京電機大学 7号館講堂

(千代田区神田錦町 2-2)

交通: 国電一神田お茶の水駅, 地下鉄一神田
駅

講演会参加費

参加者一名につき 2,000円

但し, 論文発表者は参加費無料

本件に関する問合せ先

(社) 日本工業教育協会

〒105 東京都港区新橋 2-19-10 蔵前工業会館

Tel. 03-571-1720 (担当: 福山)

プログラム

10:10 第1セッション 工業教育の理念

1. 工業教育の専門に関する知識 篠原 邦英(国土建設学院)

2. 工業教育を考える 長元亀久男(岡山理科大)

11:10 第2セッション 工業教育の評価

1. 工業教育の評価 菅野 一(岐阜工業高専)

2. 技術科学系高等教育に適した人文教育の
カリキュラム開発について

棚町 知弥(長岡技科大)

- 13:00 特別講演
国際技術協力とわが国の工業教育
井深 大 (日本工業教育協会会長)
- 14:00 第3セッション 企業内教育
座長 大西 清 (武蔵工業大学教授)
1. 企業内工業教育の方法について
山田 昇 (日立総合経営研究所)
 2. 石油化学コンビナートにおける
企業内教育システム
○三須 武 (三井東圧化学(株)大阪工業所
製造2部副部長)
樋口 欽一 (同上, 製造4部副部長)
- 15:00 第4セッション カリキュラム
1. マイコンとテレビを用いた自習システムの一例
○秋田 宏 (東北工業大学助教授)
松山 正将 (同上 講師)
佐藤仁一郎 (同上 講師)
小島 三男 (同上 技術員)
 2. 大学学部における電子材料・デハイス
実験教育に関する検討
河東田 隆 (東大宇宙研究所)
- 16:00 閉会の挨拶
日本工業教育協会編集委員長
後藤 正之 (三菱電機(株)技術管理部長)
○印は講演者

第7回計測と制御におけるミニコンとマイクロコンピュータ講習会および第3回初心者のための自動制御基礎講習会開催のお知らせ

計測自動制御学会主催の標記2講習会を本会は協賛することとしましたので参加希望の方は同学会に問合せお申込下さい。

第3回初心者のための自動制御基礎講習会
—プロセス制御の理論と実際—

期日 昭和54年10月25日(木), 26日(金)9:00~17:00
会場 土木学会講堂 (東京都新宿区四谷一丁目)
演題講師 プロセス制御の理論と実際 宮崎誠一君
制御系の構成 東工大 石田勝久君
参加費 主催協賛学会会員 15,000円

第7回計測と制御におけるミニコンと
マイクロコンピュータ講習会

期日 昭和54年12月17日(月), 18日(火)
9:30~17:20
会場 国立教育会館(東京都千代田区文部省となり)
<マイクロコンピュータ技術の展望> (12月17日)
マイクロコンピュータの展望 東工大 石田勝久君
自動化計測とマイクロコンピュータ
電総研 根本俊雄君
計測システムにおけるインターフェースバス
横河 鬼頭史郎君
センサーとそのインタフェーシング
青学大 小畑耕郎君
<マイクロコンピュータのソフトウェアと応用>
(12月18日)

マイクロコンピュータ用高水準言語
武蔵野電通研 野村浩郷君
スマート計測器への応用 横河電機 西村謙一郎君
パーソナルコンピュータの計測への応用
安立電気 今井彬伯君
ラボラトリ・オートメーション
清水建設 日比一喜君
産業リモセンのためのデータ収録と解析システム
電総研 小野祐一君

<技術講演会と協力会社での実習>
(昭和55年1月28日(月)~2月1日(金))
参加費 会員 25,000円
(講習会または実習の何れかのみは 15,000円)
問合先・申込先 〒105 東京都港区虎ノ門 1-15-5
琴平アネックス
計測自動制御学会 (電03-501-7671)

第26回腐食防食討論会

主催 腐食防食協会 協賛 本会ほか 26 関連学協会
日時 昭和54年11月12日(月), 13日(火),
14日(水) 9:00~17:00
場所 日本生命中之島研修所講堂 (大阪市北区中
之島 4-3-43 電 06-443-3131 国電環状線
福島駅下車南へ7~8分)
講演発表 電気化学計測と腐食試験に関するもの
29件
防食設計と施工技術 〃 15件
鉄およびニッケル基合金の応力腐食割れ
〃 15件
参加費 協賛学協会員予約 5000円 当日 6000円
申込問合先 〒591 堺市百舌鳥梅町 4-804
大阪府立大学工学部応用化学教室林研究室
内 第26回腐食防食討論会事務局
(電 0722-52-1161 内 2308)

金属学会セミナー

非晶質材料の特性と応用

協賛 日本鉄鋼協会, ほか
日時 昭和54年11月8日(木), 9日(金)
場所 東京都中小企業会館9階講堂
東京都中央区銀座 2-10-18
電話 03-542-0121
聴講料 (テキスト代を含む)
会 員 12,000円
(維持員会社の社員を含む)
非 会 員 20,000円
学 生 会 員 4,000円
学 生 非 会 員 9,000円
(協賛学協会の会員は会員聴講料とします)
定 員 150 名
申込要領 聴講料を添え (現金書留, 為替, 振替 仙台
5592 のいずれでもよい) 早めにお申込み下さ
い。受理次第聴講券をお送りいたします。

申込先 980 仙台市荒巻字青葉
日本金属学会 電話 0222-23-3685
プログラム

[第1日 11月8日]

- 9:30 非晶質材料研究の現状と将来
阪大基工 桜井 良文
- 11:00 非晶質材料の生成過程の理論的考察
日立中研 谷口 哲
- 13:20 非晶質構造と原子輸送
東北大金研 鈴木 謙爾
- 14:50 非晶質半導体の特性と応用
日本通信技術電子部品開発部 井郷 健夫

16:30 総合討論

[第2日 11月9日]

- 9:30 非晶質磁性材料
ソニー中研 牧野 好美
- 11:00 非晶質金属合金の電子構造
名大工 水谷字一郎
- 13:20 構造材料としての非晶質金属
東北大金研 増本 健
- 14:50 非晶質金属の化学特性と応用
東北大金研 橋本 功二
- 16:30 総合討論

International Conference on the Technological Impact of Surfaces

- 日時 1980年5月19~21日
 - 場所 Washington, D. C., U. S. A.
 - 主催
 - The Joining Division and Cleaning, Finishing and Coating Division of American Society for Metals
 - The American Deep Drawing Research Group
- 標記会議では
"the intrinsic properties of the surface of sheet materials as they relate to forming, joining, and painting"

に関する論文を広く募集しております。

投稿を希望される方は、仮アブストラクトは1979年9月30日まで、最終アブストラクトは、1979年12月30日までに下記の要領でお送り下さい。

- Forming に関する論文
Mr. William Brazier, Ford Motor Company, Box 2053, Dearborn, Michigan 48121, U. S. A.
- Welding と bonding に関する論文
Prof. T. W. Eagar, Department of Materials Science and Engineering, Massachusetts Institute of Technology, Cambridge, Massachusetts 02139, U. S. A.

- Painting と finishing に関する論文
Mr. William G. Wood, Kolene Corporation, 12890 Westwood Ave., Detroit, Michigan 48223, U.S.A.

The Materials & Processing Show and Congress

- 日時 1979年11月13~15日
- 場所 McCormick Place in Chicago, Illinois, U. S. A.
- 主催 American Society for Metals
11月14日にはASMのAnnual Meetingも開催される予定です。
詳細につきましては直接下記にお問い合わせ下さい。
Conference & Exposition Department, American Society for Metals, Metals Park, Ohio 44073, U. S. A.

The International Conference on Cutting Tool Materials

- 日時 1980年9月16~18日
- 場所 Cincinnati, Ohio, U. S. A.
- 共催 American Society for Metals
及び日本鉄鋼協会他、2団体
- 論題
 - 1) Production and fabrication of tools
 - 2) Physical properties and methods of assessing
 - 3) Evaluation of cutting properties
 - 4) Application of cutting tools

標記会議では、上記論題で論文を募集しております。投稿ご希望の方は600語前後のアブストラクトを1979年11月1日までに、下記宛お送り下さい。

Frank W. Gorsler E-69, General Electric Company, Interstate 75, Evendale, Ohio 45215, U. S. A.

ケミカル・アブストラクツ・サービス(CAS)の全サービス(出版物等)の取扱い開始お知らせ

本会初め27学協会で組織している化学情報協会ではアメリカ化学会との協定によつて、1978年からCASサービスのうち電算機可読ファイルの日本国内における流通を一手に扱い、その研究開発と普及に努めてきました。今度、1980年分からCAS全サービスの一手扱を始めることになり、従つてケミカル・アブストラクツを初め全ての印刷物も同協会を経由してご入手頂くことになります。目録等は、直接同協会にご請求下さい。なお、業務量の増大、電算機導入等の都合上、同協会は7月20日から次に移転しましたのでお知らせします。

113 文京区弥生 2-4-16 学会センタービル内
社団法人 化学情報協会 (電 03 (816) 3462)